

芽吹き屋 presents

第 10 回盛岡市アイスリンクメモリアルカップ 大会全体総括

— 男子の部・女子の部の開催結果、横断的評価及び第 11 回大会以降の基本方針 —

1. 本総括の目的

芽吹き屋 presents 第 10 回盛岡市アイスリンクメモリアルカップは、男子の部を 2026 年 6 月 27 日・28 日、女子の部を同年 7 月 25 日・26 日に、みちのくコカ・コーラボトリングリンク（盛岡市アイスリンク）において開催し、全日程を終了した。本資料は、男子の部及び女子の部の開催結果、参加選手アンケート、競技運営、開催時期、交流企画、財政、情報発信、危機管理等を横断的に整理し、第 11 回大会以降の大会設計及び運営体制の改善につなげることを目的とするものである。各部門の詳細な試合結果、アンケートの設問別集計、個別の運営経過等については、「男子の部総括」及び「女子の部総括」において別途整理している。

本総括では、両部門に共通する成果と課題を中心に、大会全体として今後目指すべき方向性を示す。

2. 大会全体の開催結果

第 10 回大会では、男子の部・女子の部ともに、6 チームによる 8 エンド・総当たり戦を実施した。

部門	開催日	参加チーム数	試合数	優勝
男子の部	2026 年 6 月 27 日・28 日	6 チーム	15 試合	チーム斎藤
女子の部	2026 年 7 月 25 日・26 日	6 チーム	15 試合	東京 NB
合計	4 日間	12 チーム	30 試合	—

両部門の最終順位は、次のとおりである。

順位	男子の部	女子の部
優勝	チーム斎藤	東京 NB
準優勝	Team OGIHARA	チーム柏木

順位	男子の部	女子の部
第 3 位	RockStars	アクレージュ宮城
第 4 位	KIKUCHI	チーム中村
第 5 位	石の上にも 3 エンド	アルファベッツ
第 6 位	SPARKLEs	メローはたはた

男子の部は、一時、ワールドカーリングツアーのポイント付与に必要なチーム数に到達したものの、その後のキャンセル等により、最終的にはポイント付与対象大会として成立しなかった。女子の部についても必要な 8 チームには達しなかったが、第 5 回大会以来、5 大会ぶりに女子の部を再開することができた。

男子・女子ともに WCT ポイント付与対象大会とはならなかったものの、参加チームの理解と協力を得て、各部門 6 チームによる総当たり戦として競技機会を確保し、第 10 回大会の全 30 試合を完遂できたことは、大会全体として大きな成果である。

3. 本大会の位置付け

盛岡市アイスリンクメモリアルカップは、カーリング専用シートを備えた盛岡市アイスリンクの開業を記念して始まった大会である。現在の本大会は、単なるクラブ内行事や親睦大会ではなく、県外を含む競技志向のチームを盛岡に迎え、一定水準以上の競技機会を提供し、参加チームの競技力向上につなげる大会として継続してきた。**盛岡地域におけるカーリング競技の「普及」と「強化」の両立を目指す中で、本大会は、特に競技力の強化及び競技志向のチームに対する大会機会の提供を担うものと位置付けられる。**また、本大会は、単に試合を行うだけでなく、次の要素を一体として提供する、**オールインクルーシブ型の競技大会**として設計している。

- 8 エンドによる競技機会
- 賞金及び表彰
- 昼食
- 開会式及びレセプション
- 参加チーム間の交流
- ライブ配信
- 公式記録の作成及び公開
- SNS 及びホームページによる情報発信
- 保険及び記念品等
- 優勝チームに対する海外大会への参加機会

この大会設計は、単に競技を実施するだけでなく、盛岡を訪れたチームに、競技面、交流面及び滞在面のいずれにおいても価値を感じてもらい、継続的に参加してもらえる大会とすることを目的とするものである。男子・女子ともに大会全体、料理・弁当、レセプション及び来年度の参加意向について高い評価が得られたことから、**現在の大会の基本設計には、一定の妥当性があるものと考えられる。**

4. 参加選手アンケートの横断的評価

4-1. アンケートの実施状況

参加選手アンケートの実施状況は、次のとおりであった。

部門	出場選手数	回答数	回答率
男子の部	26 名	23 件	88.5%
女子の部	26 名	23 件	88.5%
合計	52 名	46 件	88.5%

大会日程、開催時期等に関する一部の設問では複数回答を認めている。また、自由記載の意見は、必ずしも参加選手全体の合意を示すものではないが、運営上の合理性が認められる意見については、今後の検討事項として整理した。

4-2. 大会全体の満足度

大会全体の満足度は、次のとおりであった。

回答	男子	女子	合計
大変満足	14 件	14 件	28 件
満足	9 件	9 件	18 件
普通以下	0 件	0 件	0 件

回答者 46 名全員が「大変満足」又は「満足」と回答しており、回答者に占める肯定的評価は 100%であった。男女で開催時期や参加チーム、競技展開が異なったにもかかわらず、両部門で同様に高い評価が得られたことから、**現在の大会の基本設計は、参加選手から広く受け入れられたものと評価できる。**

4-3. 大会日程及び試合数

大会日程及び試合数に関する主な回答は、次のとおりであった。

回答	男子	女子	合計
現在の日程・試合数でちょうどよい	13 件	11 件	24 件
試合数は十分だが、日程・試合間隔はややタイト	8 件	10 件	18 件
仕事や学校を休まず参加できる形式を維持してほしい	10 件	7 件	17 件

複数回答を含むものの、現在の日程及び試合数を支持する回答が最も多かった。一方、男女を合わせて 18 件から、試合間隔又は全体日程がややタイトであったとの評価が得られた。この結果については、今回の参加チーム数及び競技方式との関係を踏まえて評価する必要がある。今大会は、男子・女子ともに 6 チームによる総当たり戦であり、各チームが 2 日間で 5 試合を行った。このため、各チームの試合間隔を十分に確保することが難しく、日程の密度が高くなった。したがって、「日程がタイト」との回答を、単に試合数を減らすべきとの結論に結び付けることは適当ではない。参加チーム数と競技方式を一体として検討する必要がある。

4-4. 開催時期

男子の部では、「仕事・学校に影響しにくい週末開催であれば時期にはこだわらない」が 10 件、「6 月が良い」が 8 件、「5 月が良い」が 4 件であった。女子の部では、「仕事・学校に影響しにくい週末開催であれば時期にはこだわらない」が 7 件、「7 月が良い」が 5 件、「6 月が良い」が 3 件であり、それ以外の時期にも回答が分散した。

この結果から、開催月そのものよりも、次の条件が重視されていると考えられる。

- 仕事や学校を休まず参加できる週末開催であること
- 他大会と重複しないこと
- 遠方からの移動に配慮した日程であること
- 早期に開催時期が示されること

また、女子の部の自由記載では、7 月は東北ミックスダブルス大会やその予選等と重なることが多いことから、男子の部と女子の部の開催月を隔年で入れ替えてはどうかとの意見があった。この意見は 1 件の自由記載ではあるものの、特定の部門だけが毎年同じ時期の不利益を受けることを避け、男女両部門の参加機会を公平に確保するという点で、運営上の合理性を有する。

4-5. 参加費

参加費に関する評価は、次のとおりであった。

回答	男子	女子	合計	割合
適正	17 件	15 件	32 件	69.6%
高い	5 件	6 件	11 件	23.9%
安い	1 件	2 件	3 件	6.5%

約 7 割が「適正」と回答しており、**大会内容と参加費のバランスについて、一定の理解が得られたもの**と考えられる。一方、約 4 人に 1 人が「高い」と回答しており、参加費に対する負担感は考慮しなければならない。参加費については、単なる競技参加費ではなく、食事、レセプション、賞金、配信、記録管理、表彰、保険、記念品及び交流機会等を含んでいることは事前に説明しているが、より分かりやすく募集時に説明する必要がある。

4-6. 会場・氷の状態・競技環境

会場・氷の状態・競技環境については、次のとおりであった。

回答	男子	女子	合計
非常に良かった	9 件	10 件	19 件
良かった	11 件	12 件	23 件
普通	1 件	1 件	2 件
やや改善が必要	2 件	0 件	2 件

「非常に良かった」及び「良かった」は合計 42 件、91.3%であり、競技環境について高い評価が得られた。盛岡市アイスリンクのカーリング専用シート、アイスメイク及び競技進行は、本大会の競技的価値を構成する重要な要素である。一方、男子の部では改善が必要との回答もあったことから、各ラウンドにおける氷の変化、アイスメイクの間隔、試合開始時刻等について、継続的に検証する必要がある。

4-7. 料理・弁当及びレセプション

料理・弁当については、男子の部で 22 件、女子の部で 21 件が「美味しかった」と回答した。女子の部では、これに加えて「温かいうどんが良かった」とする肯定的な回答が 1

件あった。男女を合わせると、46 件中 44 件、95.7%から肯定的な評価が得られた。食事及びレセプションは、単なる付随的なサービスではなく、参加者の満足度、参加チーム間の交流、盛岡らしい滞在価値及び地域事業者との接点を構成する、本大会の重要な要素である。

4-8. 来年度の参加意向

来年度の参加意向について、参加に否定的な回答はなかった。男子の部では、「参加費や大会条件が合えば参加したい」が 13 件、「ぜひ参加したい」が 9 件、「WCT ポイント付与対象大会であれば参加したい」が 1 件であった。女子の部では、「参加費や大会条件が合えば参加したい」が 17 件、「ぜひ参加したい」が 5 件、「金曜夜に 1 試合があってもよい」とする回答が 1 件であった。男女を合わせた回答者 46 名全員が、条件付きも含め、来年度の参加に前向きであった。一方、条件付きの参加意向が多いことから、次の情報をできる限り早期に示すことが重要である。

- 開催日程
- 男子・女子の開催月及び開催順
- 募集チーム数
- 参加チーム数別の競技方式
- 各チームの最低試合数
- 参加費
- 賞金
- レセプションの有無及び内容
- WCT ポイント付与対象大会となる見込み
- キャンセル時の取扱い

以上のアンケート結果から、**現在の大会設計に対する満足度は高い一方、参加費、日程、試合間隔、開催時期及び WCT ポイントの有無が**、次回の参加を左右する主要な条件であることが確認された。

5. 参加チーム数及び競技方式に関する考え方

第 11 回大会以降は、男子・女子ともに、WCT ポイント付与対象大会として成立させるため、**8 チーム開催を基本目標**とする。8 チーム開催が実現すれば、WCT ポイント付与対象大会としての競技的価値を確保できる可能性が高まるだけでなく、6 チーム総当たり戦とは異なる競技方式を採用できる。予選ブロック、決勝トーナメント、順位決定戦等を組み合

わせることにより、各チームの試合間隔に一定の余裕を持たせ、次の改善につなげられる可能性がある。

- 選手の身体的負担の軽減
- レセプション前後の日程の改善
- アイスメイク時間の確保
- 競技運営上の余裕の確保
- 試合結果及び情報発信作業の時間確保

一方、8チームによる競技方式では、予選結果や決勝トーナメントへの進出状況によって、一部のチームの試合数が、今回の6チーム総当たり戦における5試合より少なくなる可能性がある。したがって、8チーム開催は、単に参加チーム数を増やせばよいというものではない。競技方式の決定に当たっては、次の事項を総合的に検討する必要がある。

- WCT ポイント付与の要件
- 各チームの最低試合数
- 試合間隔
- 順位決定戦又はコンソレーションゲームの設定
- 参加チーム間の競技機会の公平性
- アイスメイクのタイミング
- レセプションとの接続
- 大会終了時刻
- 選手及び運営スタッフの負担

また、募集結果が6チーム又は7チームとなった場合にも対応できるよう、参加チーム数別の競技方式及び日程案を、募集開始前に作成しておく必要がある。特に、7チーム総当たり戦では、各チームが6試合を行うこととなり、今回以上に日程が厳しくなる可能性がある。そのため、7チームの場合についても、総当たり戦以外の方式を含めて検討する必要がある。今後の基本的な考え方は、

8チーム開催を基本目標としつつ、試合間隔と競技機会の双方を確保する競技方式を設計する。

こととする。

6. 開催時期に関する基本方針

6-1. 開催可能期間

第11回大会以降の開催時期については、原則として、**盛岡市アイスリンクのアイスメンテナンステナンス終了後となる5月末から7月末までの期間**を基本とする。この期間を基本とする理由は、次のとおりである。

第一に、アイスメンテナンステナンス後の良好な競技環境を活用できることである。

第二に、秋以降に本格化する国内外の競技シーズン、日本選手権につながる地域大会及び各種予選等との重複を、可能な限り避けられることである。

第三に、アンケートでは、開催月そのものよりも、仕事や学校を休まず参加できる週末開催であることが重視されていたことである。

第四に、本大会の優勝チームに付与している、ビクトリアカーリングクラブ主催「ISLAND SHOOTOUT」への参加機会を、実効性のあるものとするためである。ISLAND SHOOTOUTは、冬季オリンピック開催年を除き、10月に開催されることが多い。

優勝チームが実際に参加するためには、次の準備期間が必要となる。

- 出場意思の確認
- 参加メンバーの調整
- 航空券及び宿泊先の確保
- エントリー手続
- パスポート等の確認
- 勤務及び学校との調整
- 渡航費用の確保

このため、原則として7月末までには、男子・女子両部門の優勝チームを決定しておくことが望ましい。

ただし、盛岡市アイスリンクのアイスメンテナンステナンス終了時期及びISLAND SHOOTOUTの開催時期は、年度によって変動する可能性がある。毎年度、施設及びビクトリアカーリングクラブと早期に確認する必要がある。

6-2. 男子の部・女子の部の開催月

第10回大会では、男子の部を6月、女子の部を7月に開催した。女子の部アンケートでは、7月は東北ミックスダブルス大会やその予選等と重なることが多く、参加しにくいことから、男子の部と女子の部の開催月を隔年で入れ替えてはどうかとの意見があった。この意見は1件の自由記載ではあるものの、次の点から考慮に値する。

- 特定の部門だけが、毎年同じ時期の不利益を受けることを避けられる
- 男女両部門の参加機会を、より公平に確保できる
- 開催時期による参加チーム数への影響を比較できる
- 他大会との重複がエントリー数に及ぼす影響を検証できる
- 男子・女子それぞれの時期別の参加傾向を把握できる

したがって、第11回大会以降は、

男子の部・女子の部の開催月を固定せず、5月末から7月までの期間における両部門の開催順を、原則として隔年で入れ替えることを検討する。

ことを基本方針とする。

ただし、機械的に毎年入れ替えるのではなく、次の条件を踏まえ、毎年度柔軟に決定する。

- 日本選手権及び地域選手権の日程
- ワールドカーリングツアー・ジャパンの日程
- ミックスダブルス大会及び地域予選の日程
- 参加候補チームの遠征計画
- 盛岡市アイスリンクのアイスメンテナンス及び施設利用状況
- 8チーム確保の見込み
- ISLAND SHOOTOUT の開催時期
- レセプション会場等の確保状況

6-3. 開催時期に関する基本原則

今後の開催時期に関する基本原則は、次のとおりとする。

- ① **男子の部・女子の部ともに、盛岡市アイスリンクのアイスメンテナンス終了後となる5月末から7月末までの週末に開催することを基本とする。**

- ② 男子の部・女子の部の開催月は、原則として隔年で入れ替えることを検討する。
- ③ ただし、国内外及び地域の大会日程、会場確保、氷の状態及び参加チームの見込み等を踏まえ、毎年度柔軟に決定する。
- ④ ISLAND SHOOTOUT への参加権を実効性のある優勝特典とするため、原則として7月末までに男子・女子両部門の優勝チームを決定する。
- ⑤ ISLAND SHOOTOUT の開催時期及び参加条件については、毎年度、ビクトリアカーリングクラブと早期に確認する。

7. 賞金大会としての考え方及び財政構造

本大会は、第1回大会からワールドカーリングツアー・ジャパンの一翼を担う大会として開催し（第1回当時はアジアパシフィックカーリングツアー）、そのフォーマットに則って賞金を用意してきた。地元企業・商店等の理解と協力を得ながら継続してきた大会であり、競技志向のチームにとって参加する価値のある大会となるよう、賞金額についても段階的に充実を図ってきた。**賞金を設けること自体が大会の目的ではない。**本大会を、一定水準以上の競技志向を有するチームが参加する価値のある大会として位置付け、盛岡に質の高い競技環境をつくり、参加チームの競技力向上につなげるための大会設計の一部として、賞金を設定しているものである。また、優勝チームには海外大会への参加機会を付与していることから、賞金には、次の競技機会や遠征機会につなげるための支援という側面もある。一方、参加費に負担感を持つ選手が一定数いること、賞金大会であることに対して内外にさまざまな意見があることは理解している。男子の部総括では、現行水準の競技環境、レセプション、食事、賞金、配信及び記録管理等を維持しながら参加費負担の軽減を図るためには、概算で少なくとも50万円程度の追加的な協賛金・支援金の確保が必要になると整理した。ただし、8チーム開催時には参加費収入が増加する一方、参加人数に応じて、食事、レセプション、保険、記念品等の費用も増加する。したがって、8チーム開催によって直ちに参加費を引き下げられると考えるのではなく、6チーム、7チーム及び8チーム開催時の収支をそれぞれ試算し、次のバランスを検討する必要がある。

- 競技環境の質
- 賞金額
- 食事及びレセプション
- 参加費
- 施設使用料
- 配信及び記録管理費
- 協賛金及び支援金
- 実行委員会の運営負担

来年度以降の課題は、参加費を下げるか、賞金を維持するかという単純な二者択一ではない。競技大会としての質、参加者の満足度、財政的な持続可能性、地元企業等からの支援及び実行委員会の運営負担のバランスを取ることが重要である。

8. レセプション、交流企画及び地域との接点

男子の部・女子の部ともに、競技初日の夜に、開会式及びレセプションを開催した。レセプションでは、参加チーム、スポンサー、実行委員会及び地元関係者が交流するとともに、盛岡らしい食文化を体験する機会を設けた。

男子の部終了後には、スポンサーである芽吹き屋から、店舗への来店が増加したとの報告があった。大会参加者が盛岡滞在中又は帰路にスポンサー店舗を利用した可能性があり、**本大会が単に競技会として完結するのではなく、参加チームと地域の企業・商店等を自然につなぐ機会になり得ることが確認された。**食事及びレセプションは、本大会の大きな強みであり、次の役割を持つ。

- 参加者の満足度の向上
- チーム間交流の促進
- 盛岡らしい滞在価値の提供
- スポンサー及び地域事業者との接点の創出
- 大会の独自性の形成

来年度以降も、参加選手の負担、開催時間及び費用とのバランスを取りながら、可能な限り維持することが望ましい。

9. ビクトリアカーリングクラブとの交流及び優勝特典

本大会の優勝チームには、盛岡カーリングクラブと提携関係にあるカナダ・ビクトリアカーリングクラブが主催する「ISLAND SHOOTOUT」への参加権を付与している。第10回大会では、男子の部優勝のチーム斎藤及び女子の部優勝の東京NBが、同大会への参加権を有する。**本大会の優勝が、国内大会における成績だけで完結せず、海外での競技及び交流の機会につながることは、本大会の競技的価値を高める重要な要素である。**

10. 情報発信の成果及び課題

今大会では、公式ホームページ、公式X（旧Twitter）、公式Facebook及びYouTubeライブ配信を組み合わせ、大会前から大会終了後まで継続的に情報発信を行った。各媒体は、おおむね次の役割を果たした。

- X 及び Facebook：速報、写真、話題の提供及びホームページ・YouTube への誘導
- 公式ホームページ：正式な大会情報、対戦表、公式記録及び最終結果の集約
- YouTube：会場外から試合を視聴する機会の提供

10-1. 男子の部

男子の部では、YouTube ライブ配信を 2 日間実施し、総視聴回数は 1,057 回であった。動画の表紙に当たるサムネイルが YouTube 上に表示された回数は、約 3 万 3,000 回であった。これは 3 万 3,000 回再生されたという意味ではなく、YouTube 利用者に動画を発見してもらう機会が約 3 万 3,000 回あったことを示すものである。

10-2. 女子の部

女子の部開催時を含む公式ホームページの過去 7 日間の実績は、次のとおりであった。

- ページ閲覧回数 1,069 回
- ホームページを訪れた利用者 486 人
- 女子の部ページの閲覧回数 520 回

主な流入元は、X から 308 回、検索エンジンから 160 回、Facebook から 120 回であった。公式 X では、2026 年 7 月 28 日時点で確認できた主な投稿の実績は、次のとおりであった。

- ビクトリアカーリングクラブ、盛岡カーリングクラブ及び芽吹き屋のバナーを紹介した投稿：約 11 万 7,000 回表示
- 大会最終結果を掲載した投稿：約 7 万回表示
- チーム対抗ミニわんこそば大会を紹介した投稿：約 3,900 回表示、29 件の「いいね」

公式 Facebook では、2026 年 7 月 18 日から 27 日までに、ページ及び投稿が 6,122 回閲覧され、リアクション、コメント、シェア、クリック等が 564 件あった。YouTube では、開催時期を含む過去 28 日間の参考値として、メインチャンネルの再生回数が 1,600 回、サムネイルが表示された回数が約 2 万 7,000 回、サブチャンネルの再生回数が 569 回であった。

10-3. 情報発信全体の評価

男女各部門で集計期間及び指標が異なるため、これらの数値を単純に合算することはできない。しかし、公式ホームページ、X、Facebook 及び YouTube を連動させることで、次の成果が得られたものと考えられる。

- 大会の可視化
- 公式記録及び試合結果の公開
- 参加選手、家族及び関係者への情報提供
- スポンサー及び提携クラブの露出機会の確保
- 大会認知の拡大
- 盛岡らしい交流企画の発信
- ホームページへの誘導
- 大会終了後の記録の保存

特に、スポンサー及び関係団体の名称・バナーを掲載した投稿が広く表示されたことは、スポンサー及び関係団体の露出機会の拡大に寄与したものと考えられる。また、ミニわんこそば大会の投稿は、表示回数自体は他の投稿より少なかったものの、「いいね」が多く、競技結果だけではなく、参加者の表情や盛岡らしい交流企画を伝える投稿が、利用者の能動的な反応につながりやすいことがうかがわれた。

11. ライブ配信体制

ライブ配信は、大会会場に来ることができない選手の家族、関係者及びカーリングファンに、試合を視聴する機会を提供するものである。また、スポンサー、参加チーム及び大会自体の露出機会を拡大するという点でも、本大会の重要な付加価値となっている。一方、配信中に電源喪失、配信停止及び URL 変更等が複数回発生した。その都度、代替チャンネルへの誘導、SNS での告知及びライブチャット固定メッセージの更新等により対応したが、競技運営と配信対応を並行して行うスタッフの負担は大きかった。ライブ配信を単なる付随的な取組としてではなく、大会運営の一部として位置付け、必要な人員、機材及び時間を確保する必要がある。

12. 危機管理、参加費の取扱い及び情報公開

第 10 回大会では、男子の部の開催直前及び大会 2 日目に地震が発生し、開催可否、安全確認及び参加チームへの情報提供のあり方について、事前に判断基準を定めておく必要性が具体的に確認された。また、YouTube ライブ配信及び SNS による情報発信を行う中で、次の事項についても、事前の方針が必要であることが明らかとなった。

- 問い合わせへの対応
- 情報公開の範囲
- 配信及び SNS 上のコメントへの対応
- 根拠に乏しい断定的な投稿への対応
- 個人情報及び肖像等の取扱い
- 災害等による大会中止時の参加費及び返金

これを踏まえ、第 10 回大会を通じ、次の文書を整備した。

- 荒天・災害・野生動物等発生時の対応方針
- 洪水・大雨対策アクションプラン
- 地震対策アクションプラン
- クマ出没対策アクションプラン
- 参加費・キャンセル料・返金の取扱い
- 問い合わせ・情報公開・SNS 等対応方針
- 個人情報公開及び肖像等の使用に関する同意書のブラッシュアップ

これにより、今後の大会運営において、開催可否判断、安全確認、参加チームへの連絡、返金等の取扱い及び SNS 等での対応について、一定の判断基準の下に実施することができるようになった。

13. 第 10 回大会全体の成果

第 10 回大会全体の主な成果は、次のとおりである。

- ① 男子・女子両部門を開催し、延べ 12 チームによる全 30 試合を完遂できたこと。
- ② 第 5 回大会以来、5 大会ぶりに女子の部を再開できたこと。
- ③ 参加選手アンケートで、出場選手 52 名のうち 46 名から回答を得て、回答率 88.5%を確保できたこと。
- ④ アンケート回答者 46 名全員から、大会全体について「大変満足」又は「満足」との評価を得たこと。
- ⑤ 会場、氷、競技環境、料理、弁当及びレセプション等について高い評価を得たこと。
- ⑥ 競技、交流、食事及び盛岡での滞在価値を組み合わせた大会設計が、男女両部門において受け入れられたこと。
- ⑦ ミニわんこそば大会等を通じて、チーム及び世代を超えた交流を生み出すことができたこと。

- ⑧ 大会を通じて、参加チームとスポンサー及び地域事業者との接点を生み出す可能性が確認されたこと。
- ⑨ 公式ホームページ、X、Facebook 及び YouTube を連動させ、大会情報、公式記録、写真、スポンサー及び提携クラブとの交流を発信できたこと。
- ⑩ 優勝チームに対し、ISLAND SHOOTOUT への参加機会を付与できたこと。
- ⑪ アンケートを通じ、8 チーム開催、競技方式、開催時期、日程、参加費及び来年度の参加条件について、具体的な改善方向を得られたこと。
- ⑫ 危機管理、参加費・返金、個人情報及び情報公開・SNS 対応に関する基本方針を整備できたこと。

14. 第 10 回大会全体の課題

今後の主な課題は、次のとおりである。

- ① WCT ポイント付与対象大会として成立させるための 8 チーム確保。
- ② 8 チーム開催時における、試合間隔と最低試合数のバランス。
- ③ 6 チーム、7 チーム及び 8 チームの各場合に対応した競技方式及び日程案の事前整備。
- ④ 他大会との重複を避け、8 チームを確保しやすい開催時期の設定。
- ⑤ 男子の部と女子の部の開催月を固定せず、隔年で入れ替えることの検討。
- ⑥ 参加費負担感への対応及び協賛・支援の拡充。
- ⑦ 現行の競技環境、賞金、食事、レセプション及び配信等を維持するための財政基盤の確保。
- ⑧ ライブ配信体制の安定化。
- ⑨ 開催日程、参加費、競技方式、最低試合数、賞金及び WCT ポイント付与の見込みを、早期に参加候補チームへ示すこと。

15. 第 11 回大会以降に向けた対応方針

第 11 回大会以降に向け、次の対応を進める。

- ① 男子の部・女子の部ともに、8 チーム開催を基本目標とする。
- ② 8 チーム開催時には、試合間隔と最低試合数の双方を確保できる競技方式を検討する。
- ③ 6 チーム、7 チーム及び 8 チームの各場合について、競技方式及び日程案を募集開始前に作成する。

- ④ 開催時期は、盛岡市アイスリンクのアイスメンテナンス終了後となる５月末から７月末までを基本とする。
- ⑤ 男子の部・女子の部の開催月は、原則として隔年で入れ替えることを検討する。
- ⑥ 国内外及び地域の大会日程、会場確保、氷の状態並びに参加見込みを踏まえ、開催月は毎年度柔軟に決定する。
- ⑦ ISLAND SHOOTOUT への参加準備期間を確保するため、原則として７月末までに男子・女子両部門の優勝チームを決定する。
- ⑧ 仕事や学校を休まず参加できる週末開催を基本とする。
- ⑨ ６チーム又は７チーム開催となる場合には、金曜夜の試合設定等による日程分散についても検討する。
- ⑩ 開催日程、競技方式、最低試合数、参加費、賞金、レセプション及び WCT ポイント付与の見込みを、募集開始時に明示する。
- ⑪ 参加候補チームへの働きかけを、従来より早い時期から開始する。
- ⑫ キャンセルが発生した場合に備え、補欠チーム又は追加募集の仕組みを整理する。
- ⑬ ６チーム、７チーム及び８チーム開催時の収支をそれぞれ試算する。
- ⑭ 地元企業・商店等への協賛依頼を早期に開始し、参加費負担の軽減及び大会内容の充実につなげる。
- ⑮ 食事、レセプション及び盛岡らしい交流企画は、本大会の強みとして可能な範囲で継続する。
- ⑯ 配信用電源、通信回線、予備端末、予備 URL 及びトラブル発生時の切替手順を事前に整備する。

16. 総括

第 10 回盛岡市アイスリンクメモリアルカップは、男子・女子ともに WCT ポイント付与対象大会としては成立しなかったものの、各部門 6 チームによる総当たり戦として開催し、全 30 試合を完遂することができた。特に、5 大会ぶりに女子の部を再開できたことは、第 10 回大会の大きな成果である。

参加選手アンケートでは、男女を合わせた出場選手 52 名のうち 46 名から回答が得られ、回答率は 88.5%であった。回答者 46 名全員が、大会全体について「大変満足」又は「満足」と回答した。また、会場・氷・競技環境、料理・弁当、レセプション及び来年度の参加意向についても、概ね高い評価が得られた。このことから、競技、交流、食事、賞金、ライブ配信、記録管理及び海外大会への参加機会を組み合わせた現在の大会設計は、参加選手から一定の支持を得ているものと考えられる。一方、試合日程については、試合数は十分であるものの、試合間隔及び全体日程がややタイトであるとの評価も一定数みられた。この結果は、試合数を単純に減らすべきとの結論ではなく、6 チーム総当たり戦に

より、各チームが2日間で5試合を行ったことによる影響として捉える必要がある。8チーム開催が実現すれば、WCTポイント付与対象大会として成立する可能性が高まるだけでなく、総当たり戦以外の競技方式を採用することで、試合間隔に余裕を持たせることが可能となる。一方、大会方式によっては、一部のチームの試合数が今回より少なくなる可能性がある。したがって、8チーム開催を目指すに当たっては、単に大会規模を拡大するのではなく、WCTの要件、最低試合数、試合間隔、順位決定戦等による競技機会の確保、レセプションとの接続及び運営負担を総合的に検討する必要がある。また、開催時期については、盛岡市アイスリンクのアイスメンテナンステ終了後となる5月末から7月末までを基本とする。男子の部を毎年6月、女子の部を毎年7月に固定するのではなく、原則として隔年で開催月を入れ替える案は、参加機会の公平性、他大会との重複回避及び8チーム確保の可能性を高める上で考慮に値する。さらに、ISLAND SHOOTOUTが冬季オリンピック開催年を除いて10月に開催されることが多い点を踏まえると、出場意思の確認及び渡航準備に必要な期間を確保するため、原則として7月末までに男子・女子両部門の優勝チームを決定することが望ましい。今後は、参加候補チームへの働きかけを従来より早期に開始し、開催日程、競技方式、最低試合数、参加費、賞金及びWCTポイント付与の見込みを、募集開始時に明確に示す必要がある。また、競技環境、食事、レセプション及び情報発信という本大会の強みを維持しつつ、財政基盤、ライブ配信体制、危機管理及び運営スタッフの役割分担を整備し、大会の持続可能性を高める必要がある。

第10回大会で得られた成果と課題を一過性のものとせず、盛岡市アイスリンクメモリアルカップが、競技力向上、参加チーム間の交流、盛岡での滞在、地域からの情報発信及び海外大会への挑戦を含めて、参加する価値のある大会として継続・発展できるよう、次年度以降の大会運営改善につなげていく必要がある。